

JAMP MSDSplus 入力支援ツール

Ver.4.1 操作説明書

2013 年 6 月 25 日



Copyright 2013 JAMP. All Rights reserved.

目次

JAMP MSDSplus 入力支援ツール	Ver.4.1 操作説明書	1
1.	はじめに	1
1.1.	概要	1
1.2.	動作環境	1
1.3.	本書での表記法	2
2.	入力支援ツールの利用方法	3
2.1.	想定されている用途の例	3
2.2.	想定されていない用途の例	3
3.	入力支援ツールの操作説明	4
3.1.	入力支援ツールの起動	4
3.1.1.	外部リストの配置	4
3.1.2.	マクロの有効化	5
3.1.3.	説明シート～機能選択	7
3.1.4.	外部リストバージョンの確認	7
3.1.5.	言語設定の切り替え	8
3.2.	一般情報シート	9
3.2.1.	MSDSplus に関する情報	10
3.2.2.	製品情報	11
3.2.3.	発行者会社情報	12
3.2.4.	製品中の管理対象物質情報	13
3.2.5.	管理対象基準の詳細	14
3.3.	一般情報シートの操作	15
3.3.1.	XML 読込ボタン	15
3.3.2.	一般情報初期化ボタン	16
3.3.3.	印刷ボタン	17
3.4.	成分表シート	18
3.4.1.	物質	18
3.4.2.	報告物質該当法令等	20
3.5.	成分表シートの操作	22
3.5.1.	成分表初期化ボタン	22
3.5.2.	選択行削除ボタン	22
3.5.3.	物質情報更新ボタン	23
3.5.4.	エラーチェックボタン	25
3.5.5.	XML 出力/一時保存ボタン	26

3.6.	成分表シートを選択画面	28
3.6.1.	物質選択画面（詳細説明）.....	28
3.7.	依頼者情報シート	29
3.8.	動作設定シート	30
3.8.1.	起動時の設定.....	30
3.8.2.	発行者会社情報ひな形	30
3.8.3.	依頼者会社情報ひな形	31
3.8.4.	設定の保存	31
4.	<u>トラブルシューティング</u>	32
4.1.	エラーが出て、先の操作に進めない場合	32
4.2.	Microsoft Excel のバグによる挙動の不具合	32
4.3.	Microsoft Excel の設定による挙動の不具合	32

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-1（三井住友銀行神田駅前ビル7階）

一般社団法人産業環境管理協会内

JAMP事務局

E-mail: jamp@jemai.or.jp

1. はじめに

1.1. 概要

本書は JAMP 内で作成された MSDSplus 入力支援ツールの操作説明書です。

次章以降でツールの操作について説明しています：

2 入力支援ツールの利用方法

主な利用方法を取りあげ、各用途において本書のどこを参照すればよいか紹介しています。

3 入力支援ツールの操作説明

ツール各部の操作方法について説明しています。

4 トラブルシューティング

ツールを使用する上で発生しやすい問題を取りあげ、その解決策を説明しています。

1.2. 動作環境

入力支援ツールの動作環境は以下の通りです。

- Windows XP ServicePack3 以降
- Microsoft Excel 2003 から 2010 まで
- 表示画面解像度：1024 x 768 ドット以上

所有権 著作権

本ツールは JAMP により作成されたものです。所有権、著作権は JAMP にあります。本ツールを単独で、あるいは他の製品の一部として販売することはできません。また、本ツールの一部、または全部を無断で他のツールに組み込むことを禁止します。その場合は、必ず JAMP までご相談ください。

配付

JAMP MSDSplus の作成を目的とする範囲でコピー、配付することを認めます。

免責事項

本ツールを所持、使用したために発生した損害に対して JAMP は一切の責を負いません。また JAMP は本ツールの誤りの修正や保守についての義務を負いません。ツールに内蔵する報告物質の情報は入力への支援を目的に用意されたものであり、法令等の検索や物質名と CAS 番号の照合などに使用した場合その結果として作成された物質の情報に関しての責任はその利用者に帰するものであり、JAMP は一切の責を負いません。従って、本ツールを使用して作成された MSDSplus の内容はすべてその利用者の責となります。

1.3. 本書での表記法

XML

MSDSplus のファイルは XML ファイル形式で保存されます。本書および入力支援ツール内で「XML」と表記されている場合は、MSDSplus の XML ファイル形式を指しています。

旧版

本書および入力支援ツールは Ver.4.0 および Ver4.1 を扱うものですが、本書内で「旧版」と表記されている場合は、以前の版で扱っている Ver.3.0～Ver.3.1 を指しています。



このアイコンは、旧版からの変更点や運用上の注意点などを表します。



このアイコンは、操作上の禁止事項や、望ましくない運用方法などへの警告を表します。

2. 入力支援ツールの利用方法

2.1. 想定されている用途の例

MSDSplus 入力支援ツールは、下記の例のような用途を想定しています。

既存の MSDSplus を参照する

既存の MSDSplus を読み込んで参照することができます。

- 既存 MSDSplus の読み込みについて、「3.3.1XML 読込ボタン(15 ページ)」を参照してください。
- 受領した MSDSplus の内容チェックする場合などは「3.5.4 エラーチェックボタン(25 ページ)」を参照してください。

新規の MSDSplus を作成する

ツールの各シートに情報を入力し、MSDSplus を出力します。

- すでに入力されている内容がある場合、新規作成する前に入力内容を初期化する必要があります。初期化の操作については「3.3.2 一般情報初期化ボタン(16 ページ)」および「3.5.1 成分表初期化ボタン(22 ページ)」を参照してください。

既存の MSDSplus を読み込んで編集し、新たな MSDSplus を作成する

自社で作成済みの MSDSplus の改版、旧版の書式更新、既存 MSDSplus を元にした類似品 MSDSplus の記入などは、MSDSplus を読み込んで編集し、別 MSDSplus として出力しなおす方法が簡単です。

- 既存 MSDSplus の読み込みについて、「3.3.1XML 読込ボタン(15 ページ)」を参照してください。
- Ver.4.0 および Ver.4.1 の MSDSplus でも、物質リストが更新された場合、既存の回答に新しい物質リストの該当情報を適用しなおして出力したい場合が考えられます。物質リストの更新および旧版の書式更新については「3.5.3 物質情報更新ボタン(23 ページ)」を参照してください。

2.2. 想定されていない用途の例

内容記入したツールそのものを調査回答として流通させる

入力支援ツールは MSDSplus の閲覧および作成のためのツールであり、MSDSplus そのものではありません。各種情報を記入した本ツールの Excel ファイルをそのまま回答として流通させることは想定していません。

3. 入力支援ツールの操作説明

3.1. 入力支援ツールの起動

入力支援ツールの起動時に注意すべき点について説明します。

3.1.1. 外部リストの配置

入力支援ツールは Ver.4.0 より、物質リストを外部ファイル化したため、単独では動作しません。JAMP の WEB サイトで配布されている外部リストファイルを、入力支援ツールと同じフォルダに配置してください。なお、図 3-1 に示されているファイル名は本書が発行された時点のものであり、今後変更されることがあります。物質リスト改訂の際には外部リストの更新版が配布されますので、常に最新版を使用することを推奨します。外部リストの標準的なファイル名は「JAMP_MSDSplus_AIS_EXLIST_{改訂日付}」です。



外部リストを配置する際、ファイル名を変更しないでください。

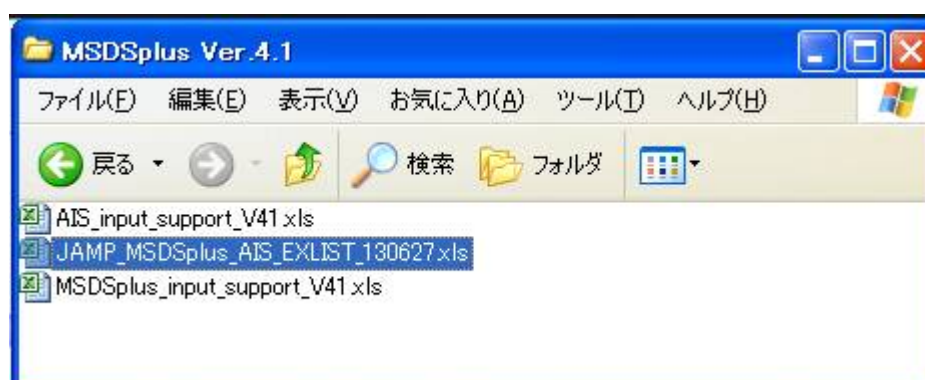


図 3-1 外部リストの配置

3.1.2.マクロの有効化

本ツールは Microsoft Excel のマクロ機能により動作するため、マクロの実行を有効化する必要があります。有効化の方法は Excel のバージョンによって異なります：

Excel2002, 2003 の場合

Excel のメニュー[ツール (T)]→メニュー[マクロ(M)]→メニュー[セキュリティ(S)]→[セキュリティレベル]ページでレベルを中に設定し、本ツール(Excel ファイル)を起動します。

Excel から最初に出てくる画面で[マクロを有効にする(E)]をクリックします。

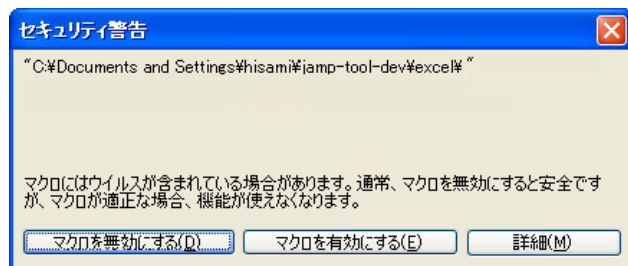


図 3-2 Excel2003 以前のマクロ有効化

Excel2007 の場合

本ツールを起動すると、Excel のメニューの下（画面上部の帯）にセキュリティの警告が表示されますので、[オプション]をクリックします。セキュリティオプションの画面が表示されますので、[このコンテンツを有効にする]を選択します。

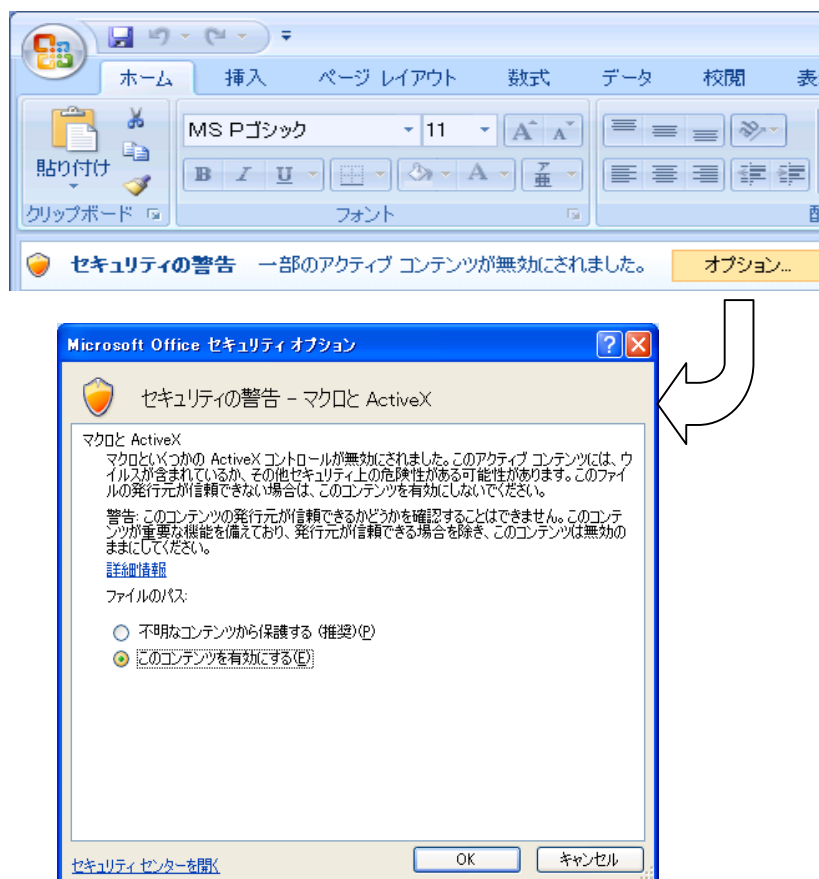


図 3-3 Excel2007 でのマクロ有効化

Excel2010 の場合

本ツールを起動すると、Excel のメニューの下（画面上部の帯）にセキュリティの警告が表示されますので、[コンテンツの有効化]をクリックします。

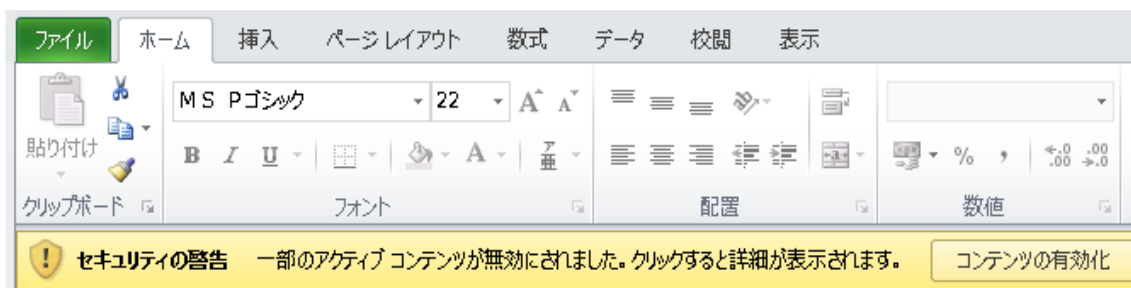


図 3-4 Excel2010 でのマクロ有効化

3.1.3.説明シート～機能選択

入力支援ツールが起動されると、最初に説明シートが表示されます。なお、図 3-5 に示されている材質リストバージョンは本書が発行された時点のものであり、今後変更されることがあります。

JAMP MSDSplus入力支援ツール(4.1版)	
<p>本ツールは、JAMP MSDSplus の閲覧および作成を支援するツールです。</p> <p>入力すべき内容が指定されているものについては選択肢が現れますのでそのなかから選んでいただけます。また物質については例示物質を検索し、選択できるようになっています。</p> <p>選択した物質の情報(該当法令等)については情報提供の前に作成者の責任の元にその内容について必ず確認してください。</p> <p>検索可能な例示物質に不足があった場合は直接記入もできるようになっています。記入にあたっては、JAMPのWEBサイトに掲載されている作成手順書、ツール操作説明書をご覧ください。</p>	
ツールの起動について	
<p>本ツールの動作環境は以下の通りです。</p> <p>Windows XP SP3以降 Excel 2003からExcel 2010まで 表示画面 1024 × 768 ドット以上</p> <p>本ツールの正常動作には、Excelマクロが有効となっている必要があります。</p> <p>Excel2007以降の環境をお使いの場合、起動時にマクロが自動的に無効化されている場合があります。</p> <p>お使いの環境に合わせてマクロを有効化してください。</p>	
外部リストについて	
<p>本ツール(バージョン4.1)は、物質/材質/各種該当法令の適用除外等のリストを外部ファイル化したため、単独では動作しません。</p> <p>JAMPのWEBサイトで配布されている外部リストファイルを本ツールと同一フォルダに配置してください。</p> <p>(標準的なファイル名は「JAMP_MSDSplus_AIS_EXLIST_[改訂日付].xls」です。配置する際、ファイル名を変更しないでください。)</p> <p>外部リスト内のバージョンは下記欄に表示されています。</p> <p>物質リスト改訂の際には外部リストの更新版が配布されますので、常に最新版を使用することを推奨します。</p> <p>【最新版を確認】ボタンもしくは起動時に自動でJAMPのWEBサイトをチェックし、更新版が配布されているか確認できます。</p> <p>(起動時の自動確認は動作設定シートで無効化できます)</p>	
物質リストバージョン 4.000	

図 3-5 説明シート

3.1.4. 外部リストバージョンの確認

インターネットに接続可能な状態で入力支援ツールを起動した場合、外部リストの状態により以下のダイアログ(図 3-6 または図 3-7)が表示されます。

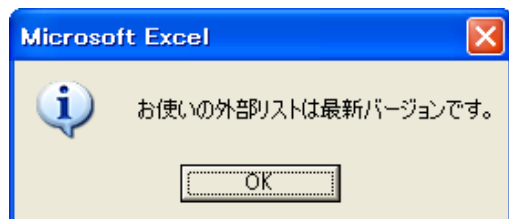


図 3-6 外部リストバージョン確認結果(1)

これは、同じフォルダに配置された外部リストファイルが最新かどうかを、JAMP の WEB サイトに確認した結果を表示しています。新しい外部リストファイルがリリースされている場合は、下記のようなダイアログが表示されます。この場合は JAMP のサイトより最新版の外部リストをダウンロードし、同じフォルダに配置してからツールを開きなおしてしてください。

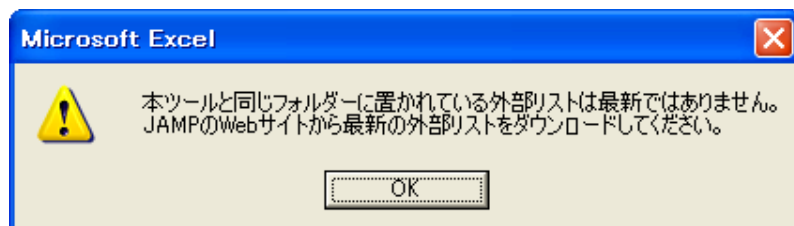


図 3-7 外部リストバージョン確認結果(2)

3.1.5.言語設定の切り替え

本ツールは日本語、英語、中国語に対応しています。別の言語で使用したい場合は編集モードを選択した後、「動作設定シート(30 ページ)」にて、使用する言語を切り替えて下さい。

3.2. 一般情報シート

MSDSplus の一般情報を入力するシートです。

*印がついている項目は必ず記入してください。必須項目が未入力の場合、入力セルがオレンジ色で表示されます。項目名が灰色の部分ツールが自動で設定しますので、作成者による編集はできません。なお、図3-8に示されているバージョンの数値は本書が発行された時点のものであり、今後変更されることがあります。

JAMP MSDSplus		XML 読み		枠内をご記入ください。	
印刷		一般情報を印刷化		* 印のある欄は必須入力です	
MSDSPlusに関する情報					
		使用書式		Ver.4.1	
		物質リストバージョン		4.000	
		GPシートID		9999999999999999	
		シート整理番号			
初版	発行日付		*		
改訂	改訂日付				
	改訂履歴		* 1		

1. 製品情報

製造者会社名 *		
製品名 *		
発行者型番	英字表記 *	
	母国語表記	
一般商品名 *		

2. 発行者会社情報

2017年度関係情報		
会社名	英字表記 *	
	母国語表記	
会社ID	登録機関ID	
	会社ID	
発行部門	部門名 *	
	住所 *	
	電話番号 *	
	FAX番号	
	メールアドレス	
作成部門	部門名	
	電話番号	
追加情報		

3. 製品中の管理対象物質情報

<p>製品中の管理対象物実情報に関する宣言 *</p>	<p>1.本製品は下記の管理対象基準に掲載される管理対象物質を含有します</p>
<p>詳細は別シートの記載となります</p>	

4. 管理対象基準の詳細

管理対象基準名		制定・改訂
JP01	化学法（第一種特定化学物質）	2010-04-01
JP02	化学法（難燃等禁止物質）	2007-09-07
JP03	物理法（特定毒物）	2007-08-15
EU01	RoHS指令	2011/65/EU
EU02	ELV指令	2011/37/EU
EU03	OLP [Annex VI Table 3.2 OMR-eat. 1,2]	EUNo 618/2012
EU04	REAOH Annex XVII [注: OLP Annex VI Table 3.2 OMR-eat. 1,2]	EUNo 126/2013
EU05	REAOH 固可対象微粉物質 (SVHO)	2013-06-20
EU06	POP+ Annex I	2012-06-20
OT01	ESIS PBT [Fulfilled]	2008-10-28
IA01	GADSL	2013 GADSL Version 1.0
IA02	IEC62474/JIG	IEC62474 D3.00
適用選択	PBT	1. PBTを対象とする
	GADSL	1. GADSLを対象とする
	JIG	1. JIGを対象とする

図 3-8 一般情報シート

次ページより、入力項目の注意点について説明します。

(全ての入力項目についての説明は「MSDSplus 作成の手引き」を参照下さい)

3.2.1.MSDSplus に関する情報

発行する MSDSplus そのものに関する情報を記入する欄です。なお、図 3-9 に示されている材質リストバージョンは本書が発行された時点のものであり、今後変更されることがあります。

MSDSplusに関する情報

使用書式		Ver.4.1
物質リストバージョン		4.000
GPシートID		9999999999999999
シート整理番号		
初版	発行日付 *	
改訂	改訂日付	
	改訂履歴 *	1

図 3-9 MSDSplus に関する情報(一般情報シート)

使用書式

編集中の MSDSplus の書式バージョンです。(今回は Ver.4.1)

旧版 MSDSplus を読み込むと Ver.3.1 以前の書式バージョンが表示されますが、物質情報更新を行うことにより新書式に変換出力するものとみなし、書式バージョンも Ver.4.1 に更新されます。

物質リストバージョン

読み込んでいる MSDSplus の材質リスト、物質リストのバージョンです。

読み込んだ MSDSplus のバージョンが表示されますが、物質情報更新を行うことにより新書式に変換出力するものとみなし、外部リストのリストバージョンに更新されます。

初版/発行日付

MSDSplus を最初に記入した年月日を記入してください。

([一般情報を初期化]ボタンで初期化した際、自動的に当日の日付が入ります)

改訂/改訂日付、改訂履歴

改訂日付には、MSDSplus を改訂した最新の改訂年月日を記入してください。初版の場合は記入不要ですが、改訂済みの場合(改訂履歴が 1 以外の場合)には入力必須となります。

改訂履歴には、改訂版数を整数で記入してください。(初版の場合は 1、以降改版ごとに 2、3、と大きくした値を入力します)

3.2.2.製品情報

製品の情報を入力します。

1. 製品情報

製造者会社名 *		
製品名 *		
発行者型番	英字表記 *	
	母国語表記	
一般商品名 *		

図 3-10 製品情報(一般情報シート)

製造会社名

Ver.4.0 から AIS と合わせて必須項目として追加されました。

発行者型番/英字表記、母国語表記

旧版の入力支援ツールでは「製品番号」という項目名でしたが、Ver.4.0 からは AIS と合わせて「発行者型番」に項目名が変更され、また英字表記での記入が必須となりました。

英字表記の項目には半角の英数あるいは記号文字のみ入力可能です。

母国語表記の項目には旧版と同じく、日本語やその他の言語表記での発行者型番を入力してください。



旧版 MSDSplus を読み込んだ際、従来の発行者型番は英字表記の項目に読み込まれます。旧版の発行者型番には一部の記号が入力できませんでしたが、Ver.4.0 以降は半角であればスラッシュ等の記号文字も入力可能となりました。

なお、発行者型番の英字表記は XML 出力の際にファイル名の一部として使われますが、ファイル名として使用できない記号文字は、ファイル名の上では「_」に変換されます。

例：型番が「JAMP/SMPL001」のとき、ファイル名には「JAMP_SMPL001」が含まれます。

3.2.3. 発行者会社情報

MSDSplus を発行した会社の情報を記入する欄です。

2. 発行者会社情報

2. 発行者会社情報		ひな形から読出
会社名	英字表記 *	
	母国語表記	
会社ID	登録機関ID	
	企業ID	
発行部門	部門名 *	
	住所 *	
	電話番号 *	
	FAX番号	
	メールアドレス	
作成部門	部門名	
	電話番号	
追加情報		

図 3-11 発行者会社情報(一般情報シート)

会社名/英字表記、母国語表記

英字表記の項目には、いわゆる半角の英数、記号文字のみ入力可能です。

母国語表記の項目には旧版と同じく、日本語やその他の言語表記での発行者会社名を入力してください。



旧版 MSDSplus を読み込んだ際、従来の発行者会社名は英字表記の項目に読み込まれますが、日本語などが含まれている場合、そのままでは出力時にエラーとなります。旧版からの更新時には母国語表記欄に転記し、英字表記欄を別途記入してください。

ひな形から読出

[ひな形から読出]ボタンを押下すると、「動作設定」シートの“B.発行者会社情報ひな形”欄に記載されている内容がコピーされます。発行者会社情報は複数の MSDSplus で繰り返し同じ情報を入力することが多いため、この機能を利用すると効率よく MSDSplus を作成できます。

3.2.4.製品中の管理対象物質情報

製品中の管理対象物質情報に関する宣言を選択します(詳細は成分表シートに記載)。


3. 製品中の管理対象物質情報

製品中の管理対象物質情報に関する宣言	1.本製品は下記の管理対象基準に掲載される管理対象物質を含有します
詳細は別シートの記載となります	

図 3-12 製品中の管理対象物質情報(一般情報シート)

製品中の管理対象物質情報に関する宣言

報告物質該当法令等に該当する物質の含有の有無を選択してください。



XML 出力時に、成分表の記載内容と矛盾がないかどうかのチェックが行われます。含有を確認しているとしながら成分表にはその記載がない場合(またはその逆)、出力時にエラーとして表示されます。

3.2.5.管理対象基準の詳細

管理対象基準の制定・改訂を入力します。

また旧版で適用選択が可能であった基準については対象区分が表示されます。なお、図3-13に記載されている法令や数値は、本書が発行された時点のものであり、今後変更されることがあります。

4. 管理対象基準の詳細

管理対象基準名			制定・改訂
JP01	化審法（第一種特定化学物質）	*	2010-04-01
JP02	安衛法（製造等禁止物質）	*	2007-09-07
JP03	毒劇法（特定毒物）	*	2007-08-15
EU01	RoHS指令	*	2011/65/EU
EU02	ELV指令	*	2011/37/EU
EU03	CLP [Annex VI Table 3.2 CMR-cat. 1,2]	*	EUNo 618/2012
EU04	REACH Annex XVII [除: CLP Annex VI Table 3.2 CMR-cat 1,2]	*	EUNo 126/2013
EU05	REACH 認可対象候補物質(SVHC)	*	2013-06-20
EU06	POPs Annex I	*	2012-06-20
OT01	ESIS PBT [Fulfilled]	*	2008-10-28
IA01	GADSL	*	2013 GADSL Version 1.0
IA02	IEC62474/JIG	*	IEC62474 D3.00
適用選択	PBT		1. PBTを対象とする
	GADSL		1. GADSLを対象とする
	JIG		1. JIGを対象とする

図 3-13 管理対象基準の詳細(一般情報シート)

PBT、GADSL、JIG

Ver.4.0 および Ver4.1 では「対象とする」が必須となります。

3.3. 一般情報シートの操作

一般情報シート上部に表示されているボタン操作について説明します。

3.3.1.XML 読込ボタン

既存 MSDSplus を読み込む方法について説明します。

一般情報シートの XML 読込ボタンを押すと、読込対象の MSDSplus を選択するダイアログが表示され、そのダイアログの中で MSDSplus を指定することで読み込みが行われます。

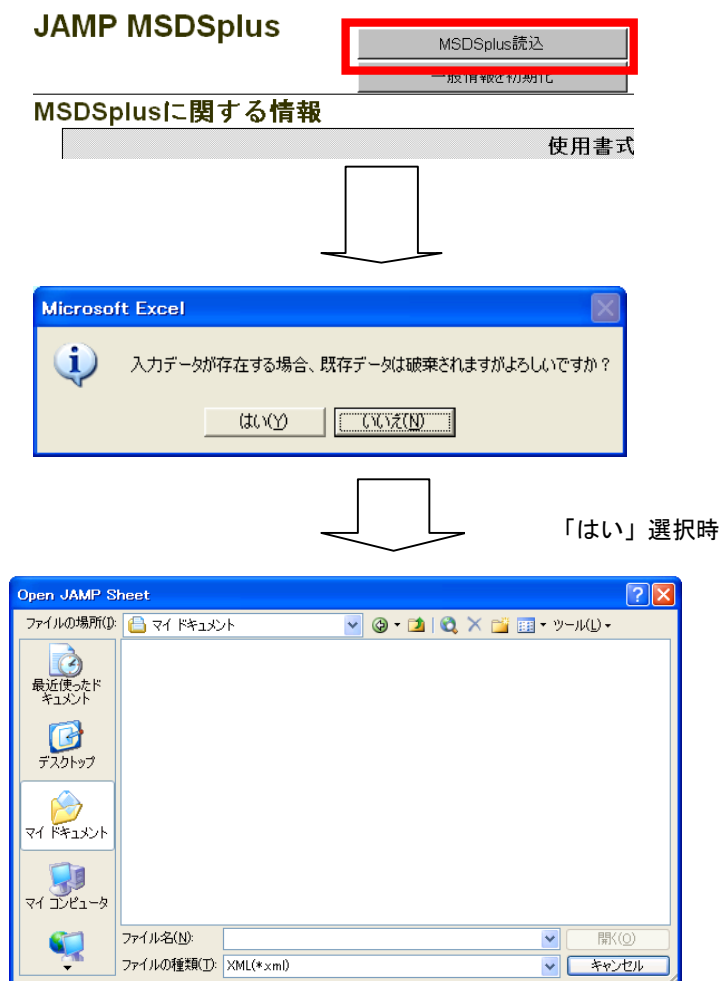


図 3-14 XML 読込操作の流れ

MSDSplus 入力支援ツールで読込可能なファイル形式

以下のファイルを選択できます。

- 原部品 MSDSplus4.0 のファイル (ファイル名は「MSDSp4_{出力日付}_{発行者型番}.xml」など)
- エラーを含む MSDSplus (ファイル名は「MSDSp4_Error_{出力日付}_{発行者型番}.xml」など)
- 一時保存の MSDSplus (ファイル名は「MSDSp4_Temp_{出力日付}_{発行者型番}.xml」など)
- 旧版の MSDSplus (ファイル名は「MSDSp_{出力日付}_{発行者型番}.xml」など)

XML 読込処理

成分表の記載行数が多い場合、MSDSplus の読み込みに時間がかかる場合があります。出力処理中は左下のステータスバーに読込中であることが表示されます。

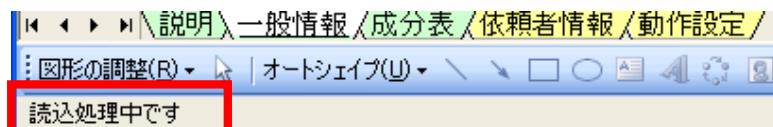


図 3-15 XML 読込中のステータスバー表示

読込完了後、完了メッセージが表示されます。



図 3-16 XML 読込完了メッセージ

3.3.2.一般情報初期化ボタン

「一般情報を初期化」ボタンで成分表の入力をすべてクリアできます。

入力途中で初期化を行うと内容消去されて元に戻すことができませんので、ご注意ください。

JAMP MSDSplus

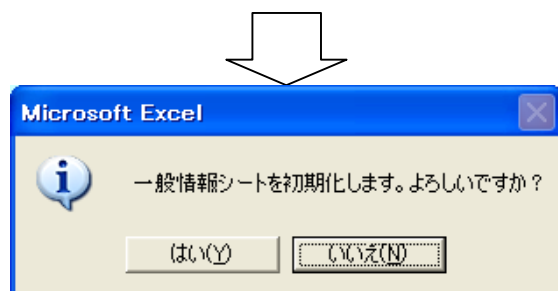


図 3-17 一般情報の初期化

旧版 MSDSplus の読込時には一般情報シートだけを初期化することはできず、成分表も初期化されます。成分表の内容を残したい場合、先に物質情報の更新を行ってから(23 ページ)、[一般情報を初期化]してください。

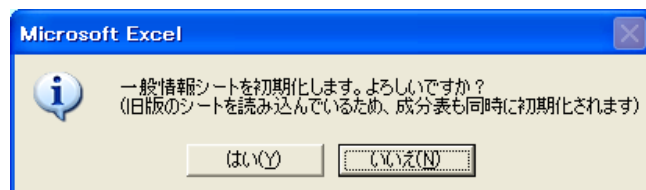
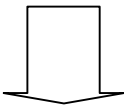


図 3-18 一般情報の初期化(旧版を開いている場合)

3.3.3.印刷ボタン

旧版 MSDSplus 入力支援ツールでは一般情報と成分表のシートが同じだったため、そのまま印刷できましたが本ツールでは印刷用のシートが別に用意されています。なお、図 3－19 に記載されているバージョンの数値は、本書が発行された時点のものであり、今後変更されることがあります。



JAMP MSDSplus

MSDSplusに関する情報

使用書式		Ver.4.1
物質リストバージョン		4.000
GPシートID		9999999999999999
シート整理番号		
初版	発行日付	
改訂	改訂日付	
	改訂履歴	1

1. 製品情報

製造者会社名		
製品名		
発行者型番	英字表記	
	母国語表記	
	一般商品名	

2. 発行者会社情報

会社名	英字表記	
	母国語表記	
会社ID	登録機関ID	
	会社ID	
発行部門	部門名	
	住所	
	電話番号	
	FAX番号	
	メールアドレス	
作成部門	部門名	
	電話番号	
追加情報		

3. 製品中の管理対象物質情報

製品中の管理対象物質情報に関する宣言	1.本製品は下記の管理対象基準に掲載される管理対象物質を含有します
--------------------	-----------------------------------

注1 製品を構成する物質のうち、対象管理基準の管理対象物質となっている物質が含有されている(「意図して添加している」または「なんらかの方法で含有が既知である」)という情報がある場合は「1(または含有時の記号)」と記載しています。
注2 下記内容について、補足説明がある場合は記載しています。
注3 その他、詳細については「JAMP MSDSplus 作成の手引き」及び「JAMP 管理対象物質解説書 及び JAMP 管理対象物質説明書」をご参照ください。
注4 当社は、本 MSDSplus に記載してある事項については十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。

物質名	CAS番号	最大含有率	備考 注2	管理対象基準 注1											
				JP 01	JP 02	JP 03	EU 01	EU 02	EU 03	EU 04	EU 05	EU 06	OT 01	IA 01	IA 02

図 3-19 MSDSplus の印刷

一般情報シートにある[印刷]ボタンを押すと、印刷シートに一般情報および成分表の内容がコピーされますので、Excel の印刷機能で出力してください。

3.4. 成分表シート

成形品の成分の詳細を入力するシートです。

*印がついている項目は必ず記入してください。必須項目が未入力の場合、入力セルがオレンジ色で表示されます。項目名が灰色の部分ツールが自動で設定しますので、作成者による編集はできません。

JAMP MSDSplus

3.製品中の管理対象物質情報

成分表初期化				物質情報更新		エラーチェック		一時保存		MSDSplus出力	
物質				管理対象基準 注1							
物質選択 追加				JP01	JP02	JP03	EU01	EU02			
物質名 *	CAS番号 *	最大含有率 *	備考 注2	該当	該当	該当	該当	該当			

EU02	EU03	EU04	EU05	EU06	OT01	IA01	IA02
該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当

図 3-20 組成成分情報 (横長のため、区切って記載しています)

成分表は階層、部品、材質、物質の段階に分かれたツリー構造で記載します。

次項からは各項目の入力方法について説明します。画面上部のボタン操作については 3.5 成分表シートの操作(22 ページ)を参照してください。

3.4.1.物質

材質中の物質およびその含有率等の情報を記入する欄です。(50 物質まで記載可能)

物質			
物質選択 追加			
物質名 *	CAS番号 *	最大含有率 *	備考 注2

図 3-21 物質入力欄

物質の追加

物質欄の[追加]ボタンで、物質単位の行を追加することができます。

物質の選択

物質を入力したいセルを選択し、物質欄の[物質選択]ボタンを押すと物質選択ダイアログが表示されます。

選択肢から物質を選んで[選択]をクリックすると、選択されていた物質行の CAS 番号、物質名称および各法令の該当フラグが入力されます。(キャンセルボタンを押下した場合は、成分表への入力なしで画面が閉じます)

物質選択

物質表示設定

絞り込み

解除

JP01 JP02 JP03

EU01 EU02 EU03

EU04 EU05 EU06

OT01 IA01 IA02

検索

部分一致

完全一致

英名で検索

和名で検索

CASで検索

EC No.で検索

並び替え

英名順

CAS順

Ver. 4.000

CAS	EC No.	NAME
10022-31-8	233-020-5	Barium-nitrate
10022-48-7	600-038-3	Chromic acid (H ₂ CrO ₇), dithium salt, dihydrate
10022-68-1		Cadmium nitrate tetrahydrate; Cadmium nitrate
100231-59-2	309-359-0	Sodium 4-[[[6-[[4-amino-6-chloro-1,3,5-triazin-2-yl]amino]-1-hydroxy-3-sulpho-2-naphthyl]azo]
1002-53-5		Dibutyl tin
10025-68-0	233-037-8	Diselenium dichloride
100258-44-4	309-388-9	Strychnidin-10-one, arsenite (1:1)
10026-03-6	233-053-5	Selenium tetrachloride
10026-17-2	233-061-9	Cobalt(III) fluoride
10026-18-3	233-062-4	Cobalt fluoride (CoF ₃)
10026-22-9	600-049-3	Cobalt nitrate
10026-23-0	233-064-5	Cobalt(2+) selenite
10026-24-1	600-050-9	Cobalt sulfate heptahydrate
10026-18-9	233-071-3	Nickel fluoride (NiF ₂)

CAS 10022-31-8 EC No. 233-020-5

選択 キャンセル

物質名[英語] Barium-nitrate

物質群名[英語] Barium compounds (organic or water soluble), selected

物質名[日本語] 硝酸バリウム

物質群名[日本語] バリウム化合物(有機化合物あるいは水溶性化合物)

JP01[化審法 第一種特定] EU01[2011/65/EU RoHS] OT01[ESIS PBT Fulfilled]

JP02[安衛法 製造等禁止] EU02[2011/37/EU ELV] IA01[GADSL]

JP03[毒劇法 特定毒物] EU03[CLP Annex VI OMR 1.2] IA02[EC62474/JIG]

EU04[REACH Annex XVII CMR1,2以外]

EU05[REACH SVHC in Candidate List]

EU06[POPs]

図 3-22 物質選択画面



物質選択画面には多岐にわたる物質検索手段が用意されています。ここでは入力の流れだけを説明しますが、物質検索の詳細機能については「3.6.1 物質選択画面 (詳細説明)(28 ページ)」を参照してください。

物質含有率の入力

物質選択後、材質中の含有率を入力します。

3.4.2.報告物質該当法令等

物質選択時、外部リストに保持している物質情報にもとづき該当フラグが自動入力されます。

通常は該当フラグを手動入力する必要はありませんが、外部リスト内の記載に誤りがあった場合などに備えて発行者自らの知見において該当フラグを手動入力することも許可されています。

管理対象基準 注1											
JP01	JP02	JP03	EU01	EU02	EU03	EU04	EU05	EU06	OT01	IA01	IA02
該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当	該当

図 3-23 該当入力欄(実際には横 1 行)



Ver.4.0 で該当フラグの選択肢の入力ルールが変更されたため、旧版 MSDSplus を読み込んだ際にはエラーチェックにより入力エラー扱いとなる場合があります。この場合、物質情報更新を行うことにより選択肢の内容も Ver.4.0 に従ったものに更新されます。

JP01

従来通り、該当の場合「1」を入力します。

JP02

従来通り、該当の場合「1」を入力します。

JP03

従来通り、該当の場合「1」を入力します。

EU01 (RoHS)

従来通り、該当の場合「1」を入力します。

EU02 (ELV)

従来通り、該当の場合「1」を入力します。

EU03 (CLP Annex VI CMR 1.2)

従来通り、該当の場合「1」を入力します。

EU04 (REACH Annex XVII)

従来通り、該当の場合「1」を入力します。また一部の管理物質が POPs Annex I に分割されています。

EU05 (SVHC)

旧版では該当の場合「1」を入力する形式でしたが、入力選択肢が「C」「A」に変更されました。

- C: Candidate List(認可対象候補物質)
- A: Authorization(認可対象物質)

EU06 (POPs Annex I)

REACH Annex XVII より分割され、新規追加となりました。

OT01 (ESIS PBT)

従来通り、該当の場合「1」を入力します。

IA01 (GADSL)

旧版では必要に応じ「P」「D」「P/D」を入力する形式でしたが、入力選択肢が「P」「D」「D/P」に変更されました。

- P: Prohibited(禁止)
- D: Declarable(報告)
- D/P: 上記 P,D の両方に該当

IA02 (IEC62474/JIG)

旧版では必要に応じ「A」「B」を入力する形式でしたが、入力選択肢が「R」「A」「I」に変更されました。

- R: Regulated(法規制対象) IEC62474 の Criteria 1に該当する
- A: For Assessment Only(評価用のみ)IEC62474 の Criteria 2に該当する
- I: For Information Only (情報提供用のみ)IEC62474 の Criteria 3に該当する

3.5. 成分表シートの操作

成分表シート上部に表示されているボタン操作について説明します。

成分表初期化				物質情報更新		エラーチェック		一時保存		MSDSplus出力		
選択行削除												
物質				管理対象基準 注1								
物質選択		追加						JP01	JP02	JP03	EU01	EU02
物質名 *		CAS番号 *		最大含有率 *		備考 注2		該当	該当	該当	該当	該当

図 3-24 成分表の操作ボタン

3.5.1.成分表初期化ボタン

成分表初期化ボタンで成分表の入力をすべてクリアできます。

入力途中で初期化を行うと内容が消去されて元に戻すことができませんので、ご注意ください。

3.5.2.選択行削除ボタン

削除ボタンで、選択した行が削除されます。

削除した行は元に戻すことができませんので、ご注意ください。

3.5.3.物質情報更新ボタン

成分表シートの物質情報更新ボタンを押下すると、成分表の物質情報を、使用している外部リストの内容に更新することができます。

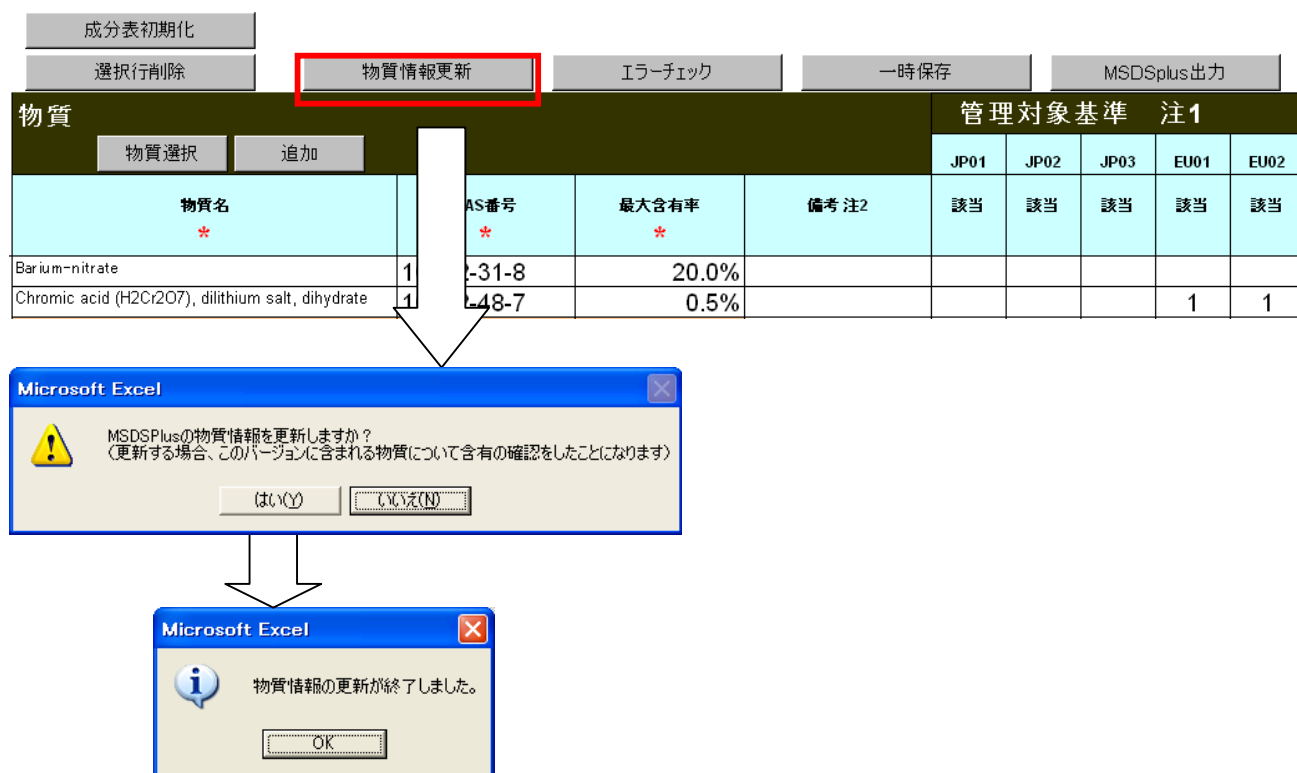


図 3-25 物質情報更新

物質情報更新時に確認ダイアログが表示されますが、「はい」を選択した場合は下記の情報が更新されます。

- 一般情報シート「使用書式」が Ver.4.1 に更新されます。
- 一般情報シート「物質リスト」のバージョン番号が、現在使用している外部リストと同じ数字に更新されます。
- 成分表シートの該当フラグがすべて現在使用している外部リストの内容にもとづき上書き更新されます。

以下で個別に説明します。

一般情報シート「使用書式」の更新

旧版 MSDSPlus であった場合、物質情報更新と同時に書式変換も行われます。これは Ver.4.0 および Ver.4.1 が旧版の物質リストにもとづいて記載することを認めていないためです。

一般情報シート「物質リスト」のバージョン番号更新

バージョン記載は、MSDSPlus を記入する際に、どの時点のリストにもとづいて記載したかを示すものです。物質情報更新により該当フラグが更新されますので、その時点で使用している外部リストの内容にもとづいて記載したことになります。

一般情報シート「PBT」「GADSL」および「JIG」対象区分の更新

Ver.4.0 および Ver4.1 では PBT、GADSL および IEC62474/JIG についても必ず報告対象とすることが求められています。

旧版では「対象としない」が選択されていた MSDSplus についても、物質情報更新して Ver.4.0 および Ver4.1 となることで報告対象となりますので、実際に PBT、GADSL および IEC62474(JIG)該当について確認の上で情報流通を行ってください。

成分表の該当フラグ更新

物質情報更新を行うと、成分表内の該当フラグは現在使用している外部リスト内容にもとづき上書き更新されます。この場合、手入力された該当フラグもすべて外部リストの内容に置き換えられます。

SVHC の追加などで物質リストが更新された場合、既存の MSDSplus の物質情報更新をもって改版とすることもできますが、記載内容が 100%でない場合にはそれまで対象とされていなかった物質の情報が抜け落ちている可能性もあります。仕入先から受領した MSDSplus の物質情報を更新する際にはこの点に注意してください。



物質情報の更新はあくまで現在使用中の外部リストの内容で成分表を更新します。古い外部リストを使用している場合には最新とはなりませんので、外部リストが最新かどうかを確認してから実施してください。

3.5.4.エラーチェックボタン

[エラーチェック]ボタンで、入力内容が MSDSplus の出力ルールから外れていないかをチェックすることができます。

情報を入力したら、成分表シートの[エラーチェック]ボタンをクリックすると、一般情報シート、成分表シート、依頼者情報シートに入力された情報に不正がないかをチェックし、結果を表示します。

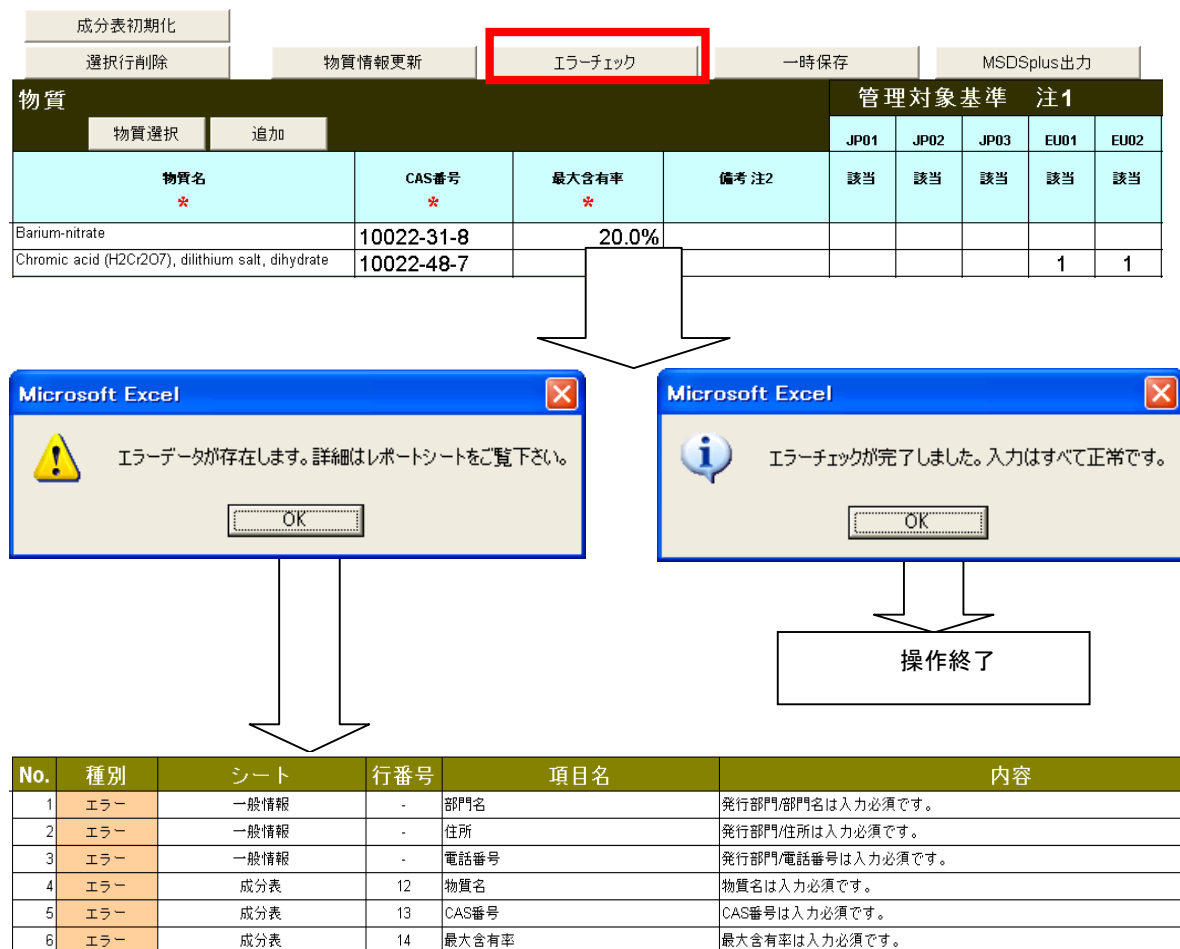


図 3-26 エラーチェック～チェック結果表示の流れ

エラーがない場合は完了メッセージのみ表示されます。エラーがある場合、エラーメッセージの後にレポートシートが表示されますので、内容を確認して修正して下さい。



エラーチェックは、この後に説明する XML 出力時にも自動で行われます。

3.5.5.XML 出力/一時保存ボタン

記入した内容を MSDSplus または一時保存 MSDSplus として出力する方法を説明します。

XML 出力

本書のページ XX 成分表シートの画面にあるボタン[XML 出力]をクリックすると、下図の保存先ファイル名の指定画面が現れます。

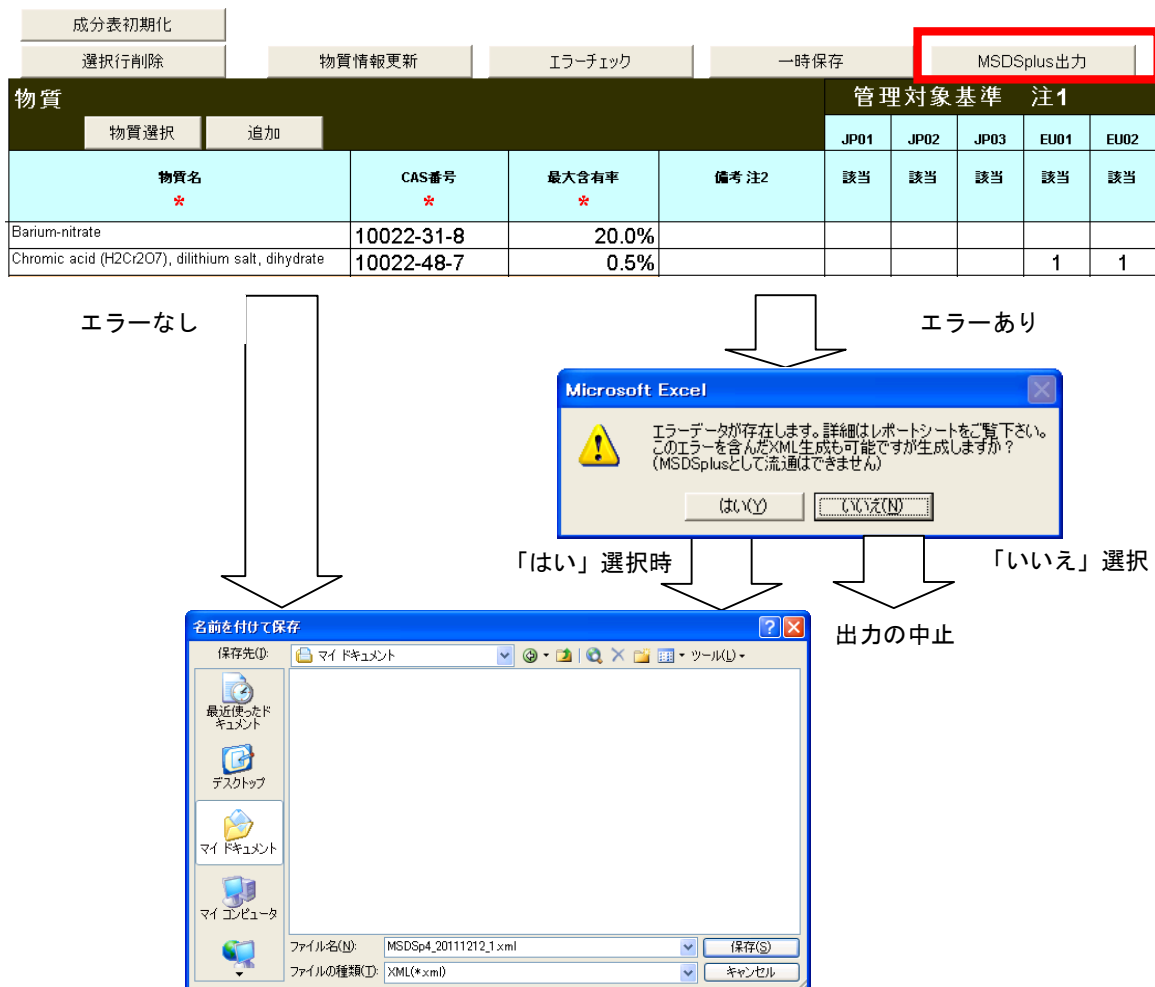


図 3-27 XML 出力の流れ

ファイル名は以下ようになります。

- 正式版の MSDSplus: 「MSDSp4_{出力日付}_{発行者型番}.xml」
- エラーを含む MSDSplus: 「MSDSp4_Error_{出力日付}_{発行者型番}.xml」
- エラーを含む MSDSplus: 「MSDSp4_Error_{出力日付}_{発行者型番}.xml」

成分表の記載行数が多い場合、MSDSplus を出力する際に時間がかかる場合があります。出力処理中は左下のステータスバーに出力中であることが表示されます。

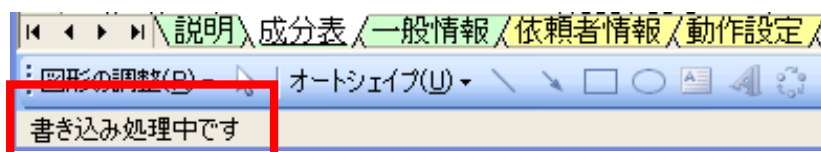


図 3-28 XML 出力中のステータスバー表示

出力完了後、完了メッセージが表示されます。



図 3-29 XML 出力完了メッセージ

XML 一時保存

成分表シートの[XML 一時保存]ボタンで、入力内容を XML ファイルとして一時保存することができます。この時には XML 出力時とは異なり、エラーチェックは行われません。ファイル名は以下のようになります。

- 一時保存の MSDSplus: 「MSDSp4_Temp_{出力日付}_{発行者型番}.xml」



一時保存であることやエラーを含んでいることは、ファイル名だけでなく内容にも記録されています。あくまで作業途中の状態を保存する目的のファイルですので、この形態で一般に情報流通させることは認められていません。

3.6. 成分表シートの選択画面

3.6.1. 物質選択画面 (詳細説明)

[物質選択]ボタンにより表示される、物質選択画面の詳細機能について説明します。

図 3-30 物質選択画面の各機能の説明

物質表示絞り込み

リストに表示する物質を該当法令の条件によって絞り込みます(複数指定可能)。該当法令コードと法令名の対応は画面下部を参照してください。

検索

現在画面内のリストに表示されている中から、指定文字列に該当する物質を検索します。

物質の英語名、和名、CAS 番号、EC 番号のいずれかで部分一致/完全一致検索ができます。

(検索ボタンを続けてクリックすると、その条件に合致する次の物質にフォーカス移ります)

並び替え

リストの表示内容を物質の英名または CAS 番号順に並び替えます。

(通常検索時は CAS 番号順です)

選択

画面中央のリストから物質を選択すると、画面下部に詳細が表示されます。内容を確認して[選択]ボタンで成分表に入力されます。

3.7. 依頼者情報シート

成形品自体の情報ではありませんが、MSDSplus の提出を依頼した会社情報等の入力シートです。

依頼者情報(任意)

		ひな形から読出
会社名 *		
会社ID	登録機関ID	
	企業ID	
依頼部門	部門名	
	住所	
依頼部門 担当者	氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	メールアドレス	
提出年月日		
依頼者型番 1		
発行者型番 1		
依頼者型番 2		
発行者型番 2		
依頼者型番 3		
発行者型番 3		
依頼者型番 4		
発行者型番 4		
依頼者型番 5		
発行者型番 5		
依頼者型番 6		
発行者型番 6		
依頼者備考 1		
依頼者備考 2		
依頼者備考 3		

図 3-31 依頼者情報シート

[ひな型から読出]をクリックすると、「会社名」から「メールアドレス」までの項目は、動作設定シートの「C.依頼者会社情報ひな形」の欄に入力されている内容をコピーすることができます。

なお依頼者情報自体の入力は任意ですが、入力した場合には会社名は必須入力となります。

3.8. 動作設定シート

お使いの環境でより便利に操作できるように、いくつかの項目を動作設定シートで設定できます。

3.8.1. 起動時の設定

ツール動作設定

A. 起動時の設定

設定を保存	
言語設定	1:日本語
起動時に外部リストバージョンを確認	1:確認する
最大表示エラー数 *	100

図 3-32 動作設定シート 起動時の設定

言語設定

日本語、英語、中国語の中から、使用する言語を選択して下さい。

起動時に外部リストバージョンを確認

ツール起動時に、読み込んでいる外部リストが最新バージョンか、JAMP の WEB サイトに接続し確認するかどうかを設定できます。初期値は「確認する」に設定してありますが、インターネットにつながらない環境で使用する際には「確認しない」に設定した方が便利な場合もあります。

最大表示エラー数

(XML 出力を含む)エラーチェック時、何件エラーを検出した時点で動作をとめるかを設定できます。初期値は 100 件に設定してあります。

3.8.2. 発行者会社情報ひな形

発行者情報を入力します。ここに入力した内容は、「一般情報シート」の[ひな型から読出]ボタンをクリックした際に「一般情報シート」にコピーされます。

B.発行者会社情報ひな形

会社名	英字表記 *	
	母国語表記	
会社ID	登録機関ID	
	企業ID	
発行部門	部門名 *	
	住所 *	
	電話番号 *	
	FAX番号	
	メールアドレス	
作成部門	部門名	
	電話番号	
追加情報		

図 3-33 動作設定シート 発行者会社情報ひな型

3.8.3.依頼者会社情報ひな形

依頼者会社情報を入力します。ここに入力した内容は、「依頼者情報シート」の[ひな型から読出]ボタンをクリックした際に「依頼者情報シート」にコピーされます。

C.依頼者会社情報ひな形

会社名		
会社ID	登録機関ID	
	会社ID	
依頼部門	部門名	
	住所	
依頼部門 担当者	氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	メールアドレス	

図 3-34 動作設定シート 依頼者会社情報ひな型

3.8.4.設定の保存

現在のツールの状態を保存したい場合、[設定を保存]ボタンをクリックすると、入力内容、設定内容を保存します。(Excel のブックを保存するのと同じです)

4.トラブルシューティング

4.1. エラーが出て、先の操作に進めない場合

起動時に環境非対応の警告メッセージが出る

お使いの PC の環境が「1.2 動作環境(1 ページ)」に適合しているか確認してください。

操作中に「実行時エラー」が発生する

入力支援ツールを使用していると、セルのコピー&貼り付け操作などで、シートの書式が崩れてしまう場合があります。崩れたまま保存するなど、元に戻すことができない場合は、JAMP のサイトから入力支援ツールを再度ダウンロードして下さい。

その後も同じ操作で実行時エラーが発生する場合はツールの不具合である可能性もありますので、JAMP にご連絡下さい。以降のツールの品質改善に役立てさせていただきます。

起動時に「本ツールは現在お使いの環境に対応していません。MSXML6.0 sp2 をインストールした状態で再度起動してください。」というメッセージが出る

以下のサイトから MSXML6.0 sp2 (msxml6-KB973686-jpn-x86.exe) をインストールしてください。

<http://www.microsoft.com/downloads/ja-jp/details.aspx?FamilyID=819352DF-CFFA-413A-94D1-6213927137F6>

4.2. Microsoft Excel のバグによる挙動の不具合

ボタンを押すたびに、ボタンや文字の大きさが変わったり、移動したりする

Microsoft Excel の不具合により、まれに発生します。ツールを保存しないようにして再起動してください。保存してしまってもレイアウトが崩れたまま元に戻せない場合、ツールを再度ダウンロードしてください。

4.3. Microsoft Excel の設定による挙動の不具合

%入力欄で"1"より大きい数字を入力すると「入力した値は正しくありません」というメッセージが出る

Microsoft Excel の設定によって発生します。Windows XP の場合、メニューバーのツール(T)からオプション(O)を選び編集のタブの中の「パーセンテージを自動で入力する(T)」にチェックを入れてください。

マクロが動作しない

次のいずれかに該当していないか確認してください。

- ZIP 形式などの圧縮フォルダの中から直接ツールを開いている場合、正常に動作しないことがあります。通常のファイルとして解凍してから実行してください。
- Microsoft Excel2007 以降はファイルを拡張子「.xlsx」の形式で保存することができますが、この形式で保存すると正常に動作しませんので「.xls」形式で保存して実行してください。

変更履歴

項 番	章・節	変更日	変更内容	変更理由
1	全般	2012-1-12	MSDSplus Ver.4.00 準拠	初版発行
2	3.3.1	2012-3-1	(誤) 原部品または複合化 MSDSplus4.0 の (正) 原部品 MSDSplus4.0 の	不要記載の削除
	3.3.1		(誤)旧版の MSDSplus (ファ イル名は「MSDSp4_{出力 日付}_{発行者型番}.xml」な ど) (正)旧版の MSDSplus (ファ イル名は「MSDSp_{出力日 付}_{発行者型番}.xml」など)	旧ファイル名を示 す接頭語の誤記訂 正
	3.8.3		図 3-34 必須表示「*」の削除	誤記訂正
3	3.4.1	2012-6-19	図 3-22 RoHS 指令官報番号修正	誤記訂正
	3.6.1		図 3-30 RoHS 指令官報番号修正	誤記訂正
4	全般	2013-6-25	MSDSplus Ver.4.1 準拠	初版発行